

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

# ちば経済フラッシュ

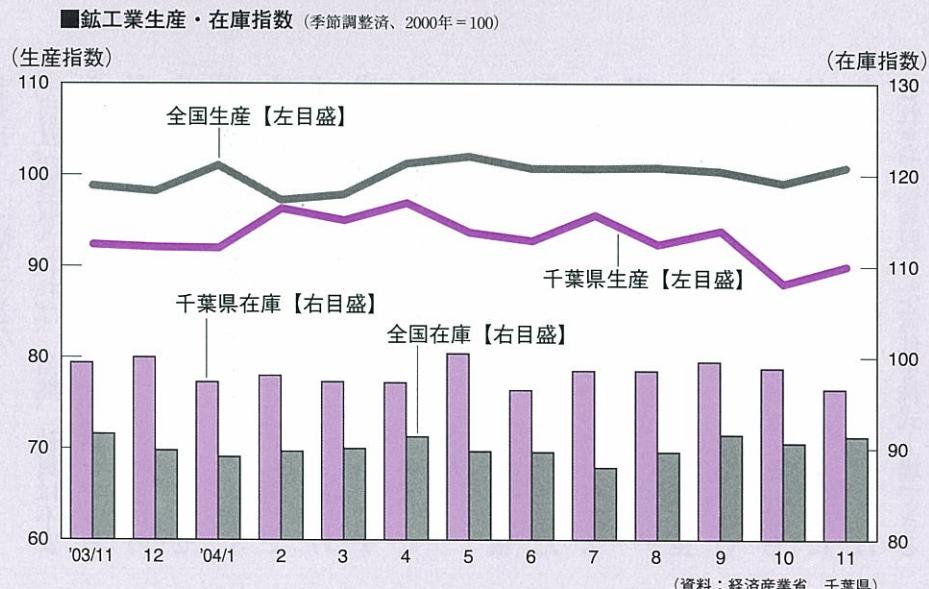
## 千葉県経済の動き —中小企業動向を中心に—

### 概況

県内経済は、製造業に牽引される形で、緩やかな回復が続いている。最終需要面では、県内小売業の販売動向は、相次ぐ新型車発売効果で乗用車販売は上向きの動きが続いているが、百貨店の売上不振が目立ち、総じてやや弱い動きとなっている。輸出は依然好調で十二か月連続で前年を上回っているが、住宅投資は五期ぶりに前年割れとなつた。2004年度設備投資計画は取扱が続いている。この間、千葉県鉱工業生産指数は一般・精密機械や石油・化学の生産が上向き、わずかながら上昇した。

県内小売業の販売動向を見ると、全体としてはやや弱い動きとなつている。乗用車新車登録台数(軽を含む)は新型車発売効果から8月に十七か月ぶりに前年実績を上回ったあと、9月から五か月連続で販売増加の動きが続いている。旅行業界も昨年のSARS等の影響の反動増もあり、海外旅行を中心大幅増加した。一方、百貨店販売は10～12月では同▲三・五%となつた。04年中でも、猛暑や台風などの悪天候による来店客数の減少等から前年比▲一・五%と不振が続き、八年連続で前年を下回った。コンビニは10月以降前年を下回っている。家電販売もパソコン等の売上伸び悩みが響き、全体ではマイナスが続いた。10～12月中の新設住宅着工戸数は、前年同期比▲三・九%と五期ぶりに減少した。分譲戸建は同+十三・五%と九期連続増加したが、分譲マンションは同▲二六・九%と五期ぶりに減少した。10～12月の公共事務負額も同▲十七・三%と二期連続で二ケタ減少した。

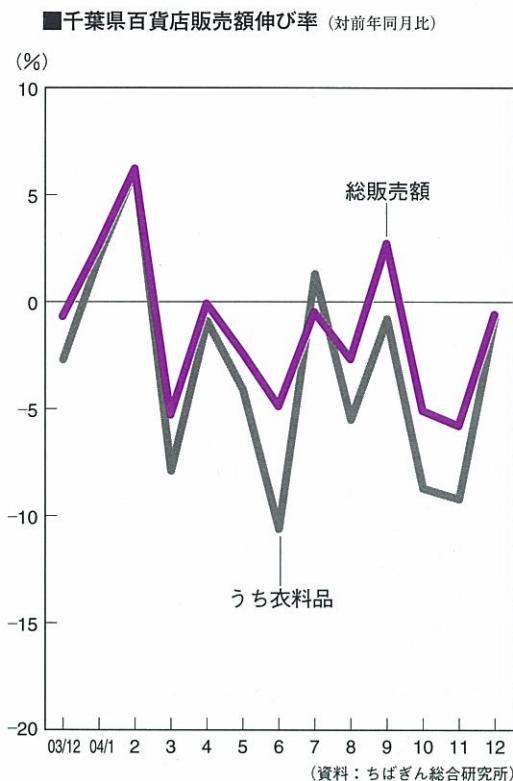
1月実施の千葉県企業経営動向調査によれば、04年度設備投資計画額は全産業で前年実績を+一二〇・〇%上回っている。  
雇用面では、千葉県の10～12月中の有効求人倍率(季調済)は〇・七九倍と前期比〇・一四倍改善した。新規求人倍率も一・三〇倍(同〇・一九倍改善)となり五期連続で一倍を上回った。新規求人数の大幅増加が目だつている(同+十四・九%)。



## 消費関連

県内小売業の販売動向は、昨年5月以降の相次ぐ新型車発売効果による乗用車販売など、一部で上向きの動きが見られるが、台風や降雪等天候不順による来店客数減少等が響き、全体としてはやや弱い動きとなっている。

一方、県内の乗用車新車登録台数（軽を含む）は、新型車発売効果から8月に十七か月ぶりに前年実績を上回り、その後も前年比プラスの動きが続いている。旅行取扱業界は、昨年のSARS等の影響の反動増もあって、海外旅行中止・正月営業時間の拡大、日本人心に大幅増加した。（関）



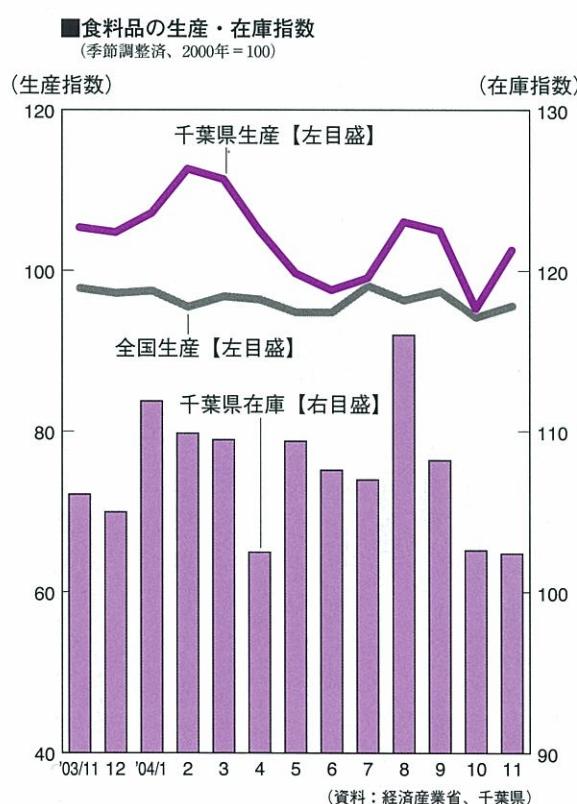
## 食料品

県内食料品メーカーの生産は、年末・正月商戦も盛り上がりらず、

行動は、以前ほど一般的ではなくなっている。

県内食料品メーカーでは、鳥インフルエンザ、BSEの影響から先行きも、厚生年金保険料の引き上げや定率減税縮小・廃止などによる消費者心理の冷え込みを懸念する向きが強く、さらに悪化が見込まれている。

年末・正月商戦が不振だった要因としては、スーパーなどの年末・正月営業時間の拡大、日本人心に見れる動きが強い。（発生川）



## 住宅・建設

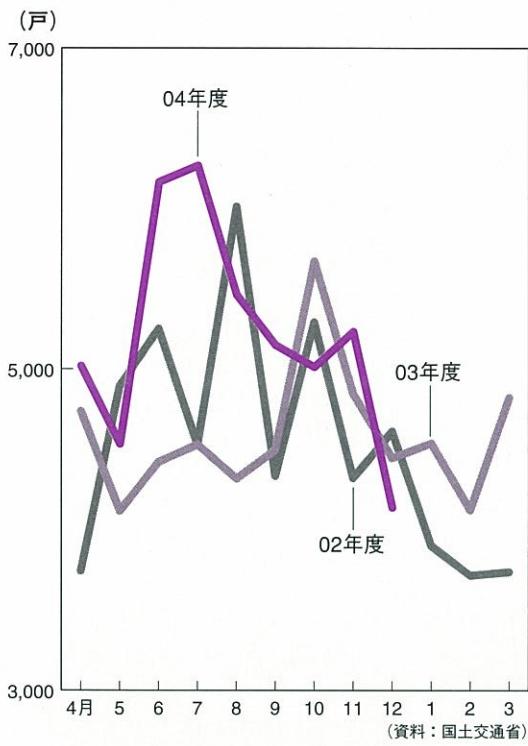
04年10～12月の新設住宅着工戸数は、前年同期比▲三・九%と五期ぶりに減少した。利用関係別には、好調だった分譲住宅（同▲六・〇%）が五期ぶりに減少した。内訳は、分譲戸建（同+十三・五%）は九期連続の増加となつたが、分譲マンション（同▲二六・九%）は五期ぶりに大幅減少した。持家（▲九・六%）は減少し、貸家（同+〇・一%）は前年並みとなつた。低価格戦略の大手戸建住宅分譲業者（パワービルダ

ー）は、一次取得者向けに値ごろ感のある物件を多数供給しているが、県内地場の業者の受注は苦戦している（建設業受注BSI…10～12月▲二・三→1～3月見通し▲九・一）。

10～12月の県内公共工事の発注状況（請負金額）は、二期連続で二ヶタ減少した（4～6月+十三・三%→7～9月▲十五・八%→10～12月▲十七・三%）。発注先別に見ると、国（同▲三三・一%）、都道府県（同▲二三・三%）が大きく減らし、地方公社、市区町村、公団・事業団も減少した。

（発生川）

■千葉県新設住宅着工戸数



## 機械

県内電気機械メーカーの10～12月の受注は悪化した。大手電気・半導体メーカーがアテネ五輪以降、在庫削減に向けた生産調整を行つてることが主な要因。05年はシリコンサイクル（四年周期の半導体業界の景気サイクル）の低下局面に当たる年でもあり、各社とも05年6月ころまでは生産量の大幅減少を見込んでいるが、05年下半年には、①半導体関連製品のデジタル家電・携帯型ゲーム機等への裾野の広がり、②迅速な生産調

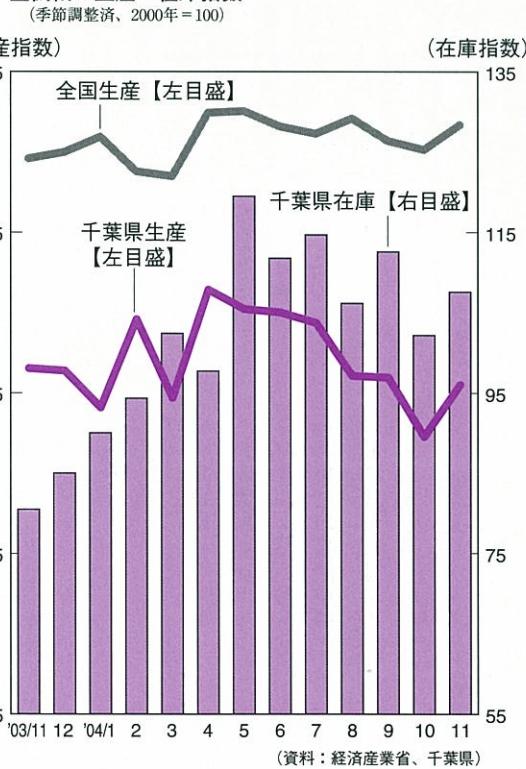
整の進展などから、生産は再び増加に転じると見る向きが多い。（酒井）

県内一般機械メーカーの業況は依然として好調に推移しており、10～12月の生産BSIは四期連続でプラスとなつた（7～9月二五・〇→10～12月三〇・六→1～3月見通し二・八）。先行きの生産見通しについては、鋼材不足から日産自動車が操業停止に追い込まれるなど、依然として鋼材価格の高騰・品不足の影響が深刻化しているほか、中国経済の動向が不透明であることなどから、慎重に見る向きが多くなつている。

（発生川）

県内一般機械メーカーの業況は依然として好調に推移しており、10～12月の生産BSIは四期連続でプラスとなつた（7～9月二五・〇→10～12月三〇・六→1～3月見通し二・八）。先行きの生産見通しについては、鋼材不足から日産自動車が操業停止に追い込まれるなど、依然として鋼材価格の高騰・品不足の影響が深刻化しているほか、中国経済の動向が不透明であることなどから、慎重に見る向きが多くなつている。（酒井）

■機械の生産・在庫指標

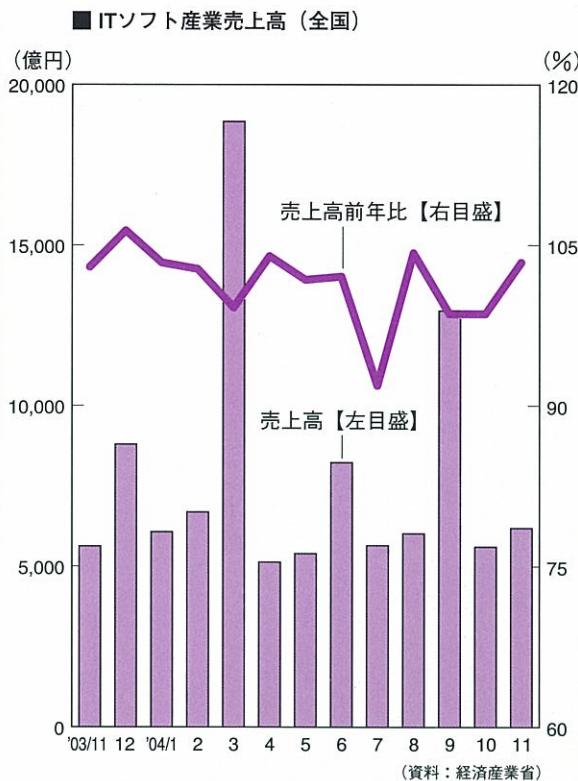


## ITソフト

県内ITソフト産業の10～12月の受注は、10月以降製造業を中心と増加しているが、これは製造業の業況回復が本格化している証拠と見る向きが多く、今後の一 段の受注増加への期待が強い。

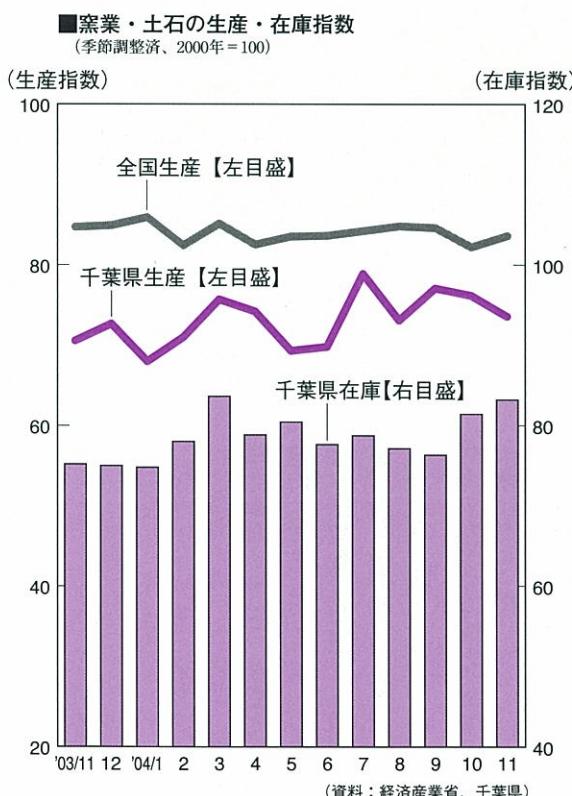
システムエンジニア(SE)やデジタル家電などの電話オペレーショ ンへの人材派遣要請も強まつてお り、人材派遣会社ではスキルの高い人員の確保が追いつかない状態になつて いる。

情報サービス業(全国)の受注額は、製造業向けを中心に四か月連続して増加、プラス幅も拡大した(前年同月比・9月+○・三%→10月+一・七%→11月+三・六%)。従業者数は、常用従業者は五か月連続でわずかながら増加している(同・+○・八%→+○・五%→+○・四%)。派遣従業者も11月には大幅に増加し、派遣従業者の需給は急速にタイトになつてしまっている(同・+二・〇%→▲三・〇%→+十一・九%)。(酒井)



## 情報サービス業 (全国)

ソフトウェア売上高は、製造業向けを中心に四か月連続して増加、プラス幅も拡大した(前年同月比・9月+○・三%→10月+一・七%→11月+三・六%)。従業者数は、常用従業者は五か月連続でわずかながら増加している



## 窯業・土石

生コンクリートの県内主要協同組合(北部・西部・中央)の04年10～12月の出荷量は、01年10～12月以来三年ぶりに三地域とも前年比二ヶタ増となり、全体でも二期連続で増加した(前年同期比・4%↓+二九・九%)。千葉中央地区(千葉・市原・四街道等)は、蘇我特定地区整備事業が10月以降急ピッチに進んだこともあって、二ヶタ増加した(同・▲三三・四%↓+二九・九%)。

6月▲二〇・一%→7～9月+二・七%→10～12月+二・二%。

千葉北部地区(柏・松戸・野田等)では、東大柏キャンパスの研究所建設など周辺開発により増加した(同・▲三三・七%↓+十四・三%↓+十七・五%)。千葉西

生コン業界では、運送コスト等の上昇による採算悪化に加え、羽田空港拡張工事が始まるごとに需給がタイト化し、山砂価格の上昇が見込まれることから、今後は販売価格への転嫁交渉を強化する方針。

(発生川)

部地区(浦安・市川・船橋等)では、マンショングループが民間工事が好調に推移し、プラス幅が拡大した(同・+二・八%↓+二三・三%↓+二九・九%)。千葉中央地区(千葉・市原・四街道等)は、蘇我特定地区整備事業が10月以降急ピッチに進んだこともあって、二ヶタ増加した(同・▲三三・四%↓+二九・九%)。

## 石油・化学

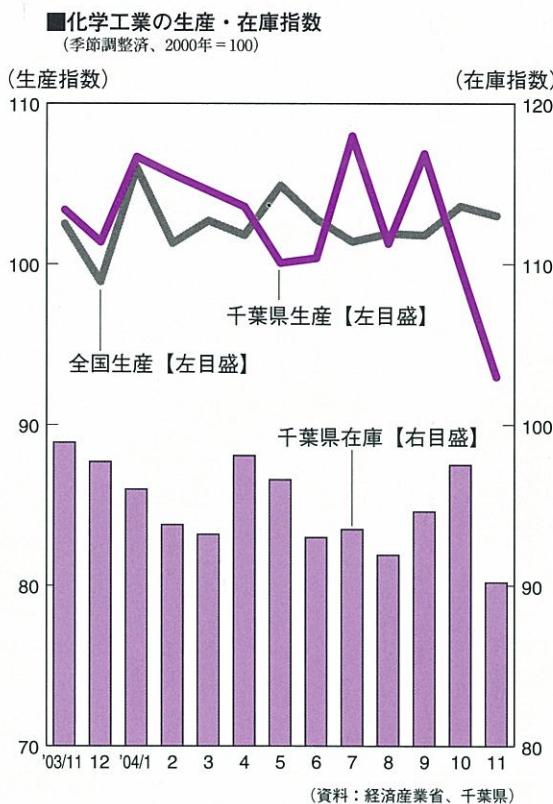
割高騰するなど好調であるが、建材（H型鋼等）は建設需要の伸び悩みから在庫が増加し、生産も弱含みとなっている。

### 石油・化学

10～12月の県内高炉メーカーの粗鋼生産量は前年同期比で若干減少したが、生産は高水準でフル稼業が続いている。輸出が好調に推移し、国内も自動車、船舶、産業機械向け等の鋼板需要が引き続き旺盛である。

県内中小鉄鋼メーカーの生産も好調に推移しているが、取扱商品により二極化の傾向が見られる。鋼板類（自動車、建機向け等）は需給が逼迫し価格が04年初から八

月にシフトする動きも見られた。販売先への価格転嫁が遅れていた川下の中小加工メーカーでは、原料高分のフル転嫁まではいかないが、10～12月には転嫁がかなり進展し収益が好転した。（酒井）



## 農業・漁業

の年間収益は減少見込み。（酒井）

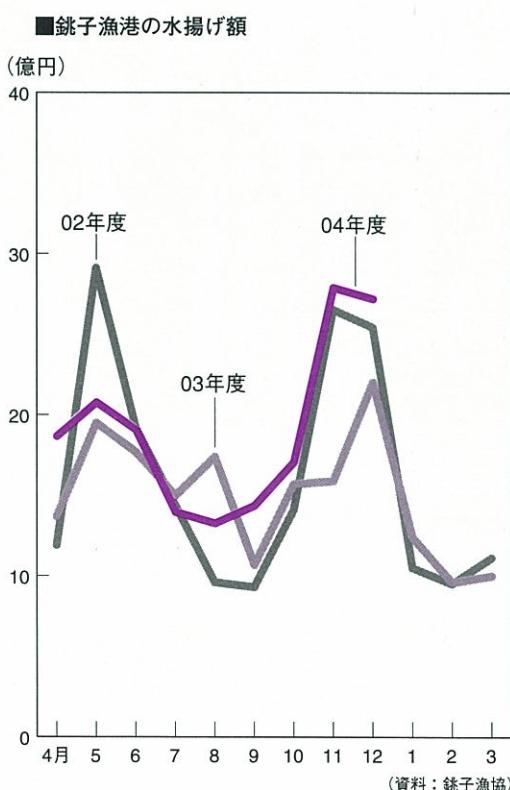
### 農業

10～12月の千葉県産主要野菜一品目の東京中央卸売市場への出荷は、数量が五万四五五七t（前年同期比▲十六・二%）、平均価格が一五七円/kg（同+五八・五%）となり、出荷金額は八五七六億円（同+三一・八%）となった。10

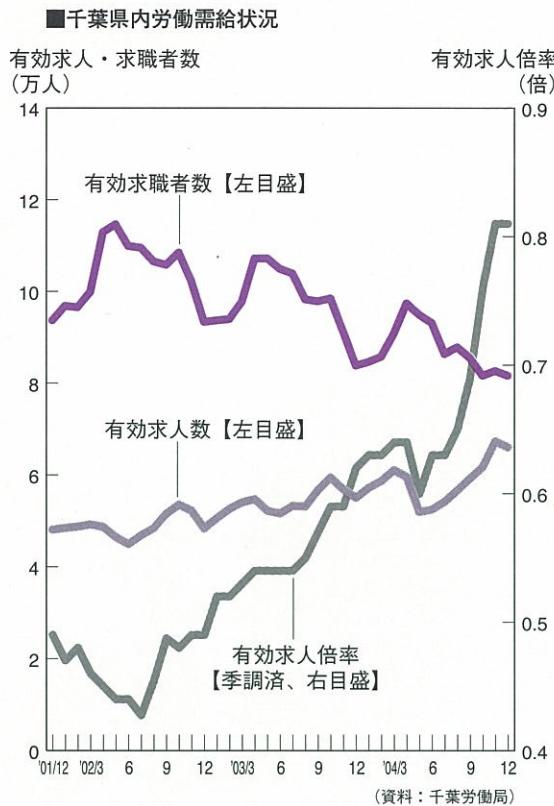
月の二度の台風上陸（二二、二三号）の影響で、豊作だった03年に比べ数量が減少した。品薄のため出荷金額は大幅に増加したが、破損したビニールハウスや冠水した畑の修復費用が発生したため、農家

勝浦漁港の水揚げは、数量六七五t（同▲三一・八%）、金額三・一億円（同+二四・一%）。主力のカツオは、数量ベースでは四期連続で前年割れとなっている。

（発生川）



## 雇用



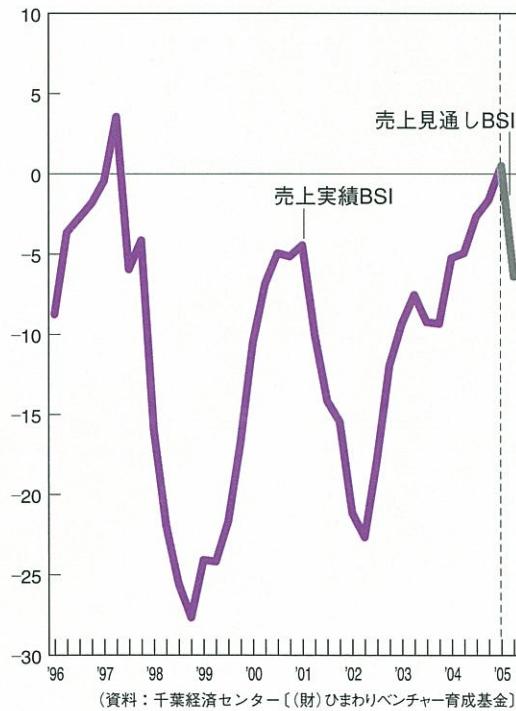
千葉県の有効求人倍率（季調済）は、二期連続で改善し、11、12月には1993年2月と同水準の○・八倍まで回復した（4～6月○・六二倍→7～9月○・六六倍→10～12月○・七九倍）。この間、千葉県と全国（同○・八〇倍→○・八三倍→○・九〇倍）の回復格差は縮小した。雇用形態別には、一般○・六三倍（前期比+○・一二倍）、パート一・二九倍（同+○・二三倍）となり、パートが一倍を大きく上回り改善が目だった。

月平均）も、全体で前期比+十・七%となり二期連続で増加した。雇用形態別に見ると、一般（同+十三・三%）が二期連続で増加し、パート（同+十六・八%）も三期ぶりに増加となった。一方、有効求職者数は同▲五・三%と六期連続で減少している。

10～12月の求人の動きを示す新規求人數（季調済、月平均）も、同+十四・九%と二期連続で増加している。雇用形態別に見ると、一般（同+十四・九%）、パート（同+十四・八%）とともに二期連続で増加し、業種別には主要全業種で増加した。

（発生川）

## ■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



県内企業の業況判断BSI（全産業）は、二・七となり、前回（7～9月期）比+二・四改善した。製造業は六・〇と同+五・五改善し全体を牽引、なかでも中小企業は六・八と同+八・五大幅改善した。一方、非製造業は▲〇・九と同▲〇・九悪化した。業種別に見ると、鉄鋼・非鉄金属（同+十七・三）、窯業・土石（同+七・二）、一般・精密機械（同+九・三）などが改善した。一方、電気機械は同▲二〇・九と大幅に

悪化した。先行き（1～3月期）の業況判断は、製造業、非製造業とも悪化を見込んでいる。

売上BSI（全産業）は〇・五と前回比+二・一改善した。売上BSIがプラスになったのは97年1～3月以来七年九か月ぶり。製造業では大企業、中小企業とも改善し、全体でも八・三と同+五・六改善した。非製造業は▲七・六と同▲一・六悪化した。

04年度設備投資計画は、03年度実績比+二〇・〇%の増加となった。製造業では同+三七・九%、非製造業も同+八・二%となつた。

（酒井）

## 企業経営動向調査(BSI)

悪化した。先行き（1～3月期）の業況判断は、製造業、非製造業とも悪化を見込んでいる。

売上BSI（全産業）は〇・五と前回比+二・一改善した。売上BSIがプラスになったのは97年1～3月以来七年九か月ぶり。製造業では大企業、中小企業とも改善し、全体でも八・三と同+五・六改善した。非製造業は▲七・六と同▲一・六悪化した。

04年度設備投資計画は、03年度実績比+二〇・〇%の増加となつた。製造業では同+三七・九%、非製造業も同+八・二%となつた。